

別冊

おいしいだものがたり

～資料館資料編～ ■「大石田雛人形展」より

桃の節句におひな様を飾ってお祝いをするという行事は、現在ではスタンダードな光景です。かつては身の穢れを人形（ひとがた）に移して川に流す「流し雛」が行われていたといい、現在の雛祭りのルーツはこのあたりに求められています。桃の節句を雛人形で祝うことは日本古来の伝統行事だと思われていますが、実は全国的な節句行事としてひなまつりが行われるようになったのはそれほど昔のことではありません。『日本民俗地図Ⅰ』（昭和44）には、全国各地の民俗資料を対象としたフィールドワークの調査結果が報告されており、節句行事の実施状況を知ることができます。これによると三月の節句に雛人形を飾る地域は全体のわずか30%に止まり、昭和中期頃まではメジャーな行事ではなかったといえます。



宮城県や秋田県では10%台とさらに低い一方山形県内では52%にのぼり、大半の地域で雛人形が飾られています。なぜ山形県には雛人形文化が広範囲に定着していたのかといえば、おそらく最上川舟運と関係しているのでしょう。県内各地には上方や江戸からもたらされた雛人形が数多く残っており、それらが舟運を介して最上川流域に広く伝播していった過程が窺えます。しかしこれだけでは、ごく一部の裕福な商人だけが楽しむ遊びに過ぎず、半数以上の地域に根付く風習にはなっていないはずです。

より広い地域の、特に庶民にまで雛人形文化を伝える役割を持っていたのが「お雛見」と「土雛」だったと考えられます。「お雛見」は、雛人形を所持する商家が近隣の人々や子どもたちを招いて菓子や軽食を振る舞うもので、大石田でも見られた風習です。「お雛見」によって雛飾りでのお祝いが庶民層にまで認知されるようになると、同様の行事が取り入れられるようになります。その際、雛飾りとして用いられたのが「土雛」だったのです。粘土を焼いて彩色する土人形は安価であったことから、雛市や行商などで気軽に手に入れることができました。土人形は仙台の堤人形が有名ですが、県内でも米沢（相良人形）や酒田（鶴土川原人形）をはじめ11か所もの生産地が確認されています。これは東北全体の約半数を占めており、県内での需要の高さ、つまりは雛飾りの文化が広く普及していたことを裏付けるものでもあります。

雛人形を伴う節句のお祝いは地域的に見ればローカルな風習ですが、宮中や大名家（大奥でも）などでは伝統的に行われていたものです。同様の文化が山形県、特に文物の交流拠点であった大石田河岸やその近隣ではかなり古くから、庶民層にまで浸透していたことは当地の文化的特異性を示すものでもあります。

大石田雛人形展は4月3日(水)まで

資料館内聴禽書屋にて、3月31日(日)に和琴演奏会、4月3日(水)に抹茶席を開催します。ぜひご来場ください！



大石田町公式アカウント開設

LINEをはじめました

防災情報や各種行政情報を受け取ることができます。

友だち登録をお願いします！

登録方法

右の二次元コードを読み取って友だちに追加してください。



大石田町公式LINE

防災放送の内容を

電話で確認できます

防災放送が聞き取りにくい、放送内容を確認したい等のご意見をいただき、町では防災放送確認ダイヤルサービスを開始しました。

このダイヤルは定時(夕方6時のメロディ等)放送を含め、直近の放送から8時間以内の内容を順次聞くことができます。

確認ダイヤル: 0237-48-8444

■総務課総務グループ TEL35-2111 (内線218)

町の人口 令和6年3月1日現在

世帯数	2,232戸	(-2)
総人口	6,095人	(-17)
男	3,023人	(-10)
女	3,072人	(-7)

(2月中の異動)

出生	0人	転入	5人
死亡	11人	転出	11人

※この人数は外国人も含めたものです。